大阪ろうさい病院麻酔科専門研修プログラム

麻酔科専門医制度の理念、使命、研修概要、運営方針、指導体制、採用方法、修得すべき知識・技能・態度

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心に、救急医療や集中治療、疼痛・緩和医療など幅広い領域で患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献することを目的としています。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学は、人間の生存に必要な呼吸器・循環器等の条件を整え、手術を可能にする生体管理医学です。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に保つため細心の注意を払って診療を行い、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストです。また、集中治療や緩和医療、ペインクリニックなど関連分野でも、生体管理学の知識と技能を生かし、高度医療を安全に提供する役割を担います。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が麻酔科研修の到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。研修内容の特徴は別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に記されており、専門研修指導医は「麻酔科専攻医指導者マニュアル」に則って指導を行います。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修内容・進行状況に配慮し、すべての専攻医が目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築します。
- 全領域を満遍なく回るローテーションを基本とし、大阪公立大学との相互ローテーション、集中治療や小児麻酔に特化したローテーションなど、キャリアプランに応じた柔軟な対応を行います。

月　　火　　水　　木　　金　　土　　日

午前	術前外来	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	術前外来	手術室	休み	手術室	休み	休み	休み
（当直）		待機					

- 症例検討会は術前外来終了後に行い、朝のカンファレンスは行っていません。
- 症例の疑問点や麻酔計画は指導医とともに計画し準備します。
- 抄読会は随時、ペインカンファレンスは第4水曜日に実施しています。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設：大阪ろうさい病院

研修プログラム統括責任者：松浦 康司
認定施設番号：197
専門研修指導医：松浦 康司（麻酔）、山下 淳（麻酔・心臓麻酔）、横川 直美（麻酔・ペインクリニック）、貴志 暢之（麻酔・ペインクリニック）、桂 ナリ（麻酔）、内本 明宏（麻酔・心臓麻酔）
特徴：希望と状況に応じてペインクリニックのローテーション可能。大学院博士課程進学希望者は大阪大学麻酔科学教室と相談できます。

② 専門研修連携施設

1. 大阪大学
2. 大阪国際がんセンター
3. 大阪急性期総合医療センター
4. 関西労災病院
5. 大阪警察病院
6. 市立豊中病院
7. 大阪母子医療センター
8. 国立大阪医療センター

各施設の紹介は後述します。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募します。

② 問い合わせ先

大阪ろうさい病院への問い合わせは、ウェブサイト、電話、電子メール、郵送で可能です。

- 担当：大阪ろうさい病院 麻酔科　松浦 康司
- メール：kamakura1192266@yahoo.co.jp
- 電話：072-252-3561（代表）

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4 年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療および関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与できるようになります。専攻医は専門研修を通じて下記 4 つの資質を修得した医師となります。

- 十分な麻酔科領域および関連領域の専門知識と技能
- 臨床現場での適切な臨床的判断能力・問題解決能力
- 医の倫理に配慮した適切な態度・習慣
- 生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院進学やサブスペシャリティー領域の専門研修への準備も整い、専門医取得後もシームレスに次段階に進むことができます。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成します。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるため、「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態、診療・検査、麻酔症例、学術活動の経験目標を達成します。原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できませんが、特別な目的がある場合のみ認定病院で指導医が指導した症例は経験症例数として数えられます。

7. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた (1) 臨床現場での学習、(2) 臨床現場を離れた学習、(3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識・技能・態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA3 度の患者の周術期管理や ASA1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。(連携病院との協力が必要な場合がある)

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い

症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。この評価には看護師、臨床工学技士などによるヒアリングも参考とする。

研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了す

るのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価をもとに修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。労働環境、労働安全、勤務条件に関しては、原則として各研修施設の研修実施責任者の調整に委ねられるが、これらの項目も研修プログラムの評価に含められる。研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年まで休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を超えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を超えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難である

と判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は、移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての下記の施設が含まれる。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、当該施設で研修を開始した専攻医は、必要に応じて基幹施設や他の連携施設に週 1〜2 回出張して特殊症例の経験を積むか、一定期間基幹施設ないしは他の連携施設に異動して麻酔研修を行う。一方、人員の不足により、上記施設の診療の質を維持することが困難となった場合は、基幹施設又は連携施設は自施設の診療の質を損なわない限りにおいて、可及的に専門研修指導医もしくは専攻医の派遣を行う。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。

各施設紹介

大阪国際がんセンター

研修実施責任者：久利通興（麻酔、周術期禁煙、周術期アナフィラキシー）
専門研修指導医：

- 大川 恵（麻酔・集中治療）
- 飯田 裕司（麻酔・集中治療）
- 朝倉 芳美（麻酔）

- 日生下 由紀（麻酔・集中治療）
- 古川 佳穂（麻酔・集中治療）
- 駒田 暢（麻酔・集中治療）
- 樋口 美奈（麻酔・集中治療）
- （専門研修指導医 計 8 名）

専門医：

- 橋口 桜子

認定病院番号：187
特徴：集中治療室のローテーションによる集中治療専門医資格の取得が可能
2025 年度 症例数

- 麻酔科管理全症例数：4176
- 小児（6 歳未満）の麻酔：0
- 帝王切開術の麻酔：0
- 心臓血管手術の麻酔：0
- 胸部外科手術の麻酔：507
- 脳神経外科の麻酔：46

大阪急性期・総合医療センター

研修プログラム統括責任者：平尾 収
専門研修指導医：

- 平尾 収（麻酔全般・集中治療・呼吸管理）
- 山下 健次（麻酔全般・集中治療・循環管理）
- 平松 大典（麻酔全般・集中治療）
- 東名 里恵（麻酔全般・集中治療）
- 寺島 弘康（麻酔全般・集中治療・循環管理・心臓麻酔）
- 丸山 直子（麻酔全般・集中治療・循環管理）
- （専門研修指導医 計 6 名）

専門医：

- 和田 沙江子（麻酔全般）
- 安部 瑞穂（麻酔全般）
- 勝田 泉（麻酔全般）

認定病院番号：70 号
特徴：救命救急医療や循環器医療などの急性期医療と、がんや腎移植などの高度専門医療を行う合計 35 の診療科が連携し、良質な医療を提供している。集中治療のローテーションが可能。
2025 年度（参考）

- 麻酔科管理症例数：5505
- 専門研修指導医の人数：6
- 貴院への専門研修指導医按分数：1

2025 年度実績

- 麻酔科管理全症例数：5505 例
- 小児（6 歳未満）の麻酔：82 例
- 帝王切開の麻酔：215 例
- 心臓血管手術の麻酔：359 例
- 胸部外科手術の麻酔：186 例
- 脳神経外科の麻酔：164 例

大阪大学

研修プログラム統括責任者：吉田 健史

専門研修指導医：

- 吉田 健史（麻酔・集中治療）
- 松田 陽一（麻酔・ペインクリニック）
- 高橋 亜矢子（麻酔・ペインクリニック）
- 井浦 晃（麻酔）
- 山本 俊介（麻酔・心臓血管麻酔・区域麻酔）
- 田中 愛子（麻酔・集中治療）
- 松本 悠（麻酔・小児麻酔・神経麻酔）
- 妙中 浩紀（麻酔・集中治療）
- 木西 悠紀（麻酔・産科麻酔）
- 池村 彩華（麻酔・集中治療）
- 播磨 恵（麻酔・産科麻酔）
- 小山 有紀子（麻酔・集中治療）
- 松本 充弘（麻酔・集中治療）
- 山下 智範（麻酔・集中治療）
- 榎谷 祐亮（麻酔・集中治療）
- 橋本 明佳（麻酔・集中治療）
- 岩田 博文（麻酔・集中治療）
- 古出 萌（麻酔・集中治療）
- 山村 愛（麻酔・集中治療）
- 森岡 智之（麻酔・集中治療）

専門医：

- 弓場 智雄（麻酔・心臓血管麻酔・小児麻酔・産科麻酔）
- 岡田 康佑（麻酔・心臓麻酔）
- 仲井 祐貴（麻酔・ペインクリニック）
- 氏本 大介（麻酔・心臓血管麻酔・小児麻酔・産科麻酔）
- 堀池 博吏（麻酔・ペインクリニック）
- 西尾 龍太郎（麻酔）
- 堺 奈生美（麻酔）

認定病院番号：49
特徴：

- あらゆる診療科があり、基本的な手術から脳死移植を含む複雑な手術、ASA1～6の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。
- 2年間の在籍で、経験必要症例の規定数の達成が可能である。
- 最新の手術に対応した最先端の麻酔や、無痛分娩を含む産科麻酔についても経験することが可能である。
- 手術麻酔、集中治療、ペインクリニック等の麻酔に関連するあらゆる分野を経験することが可能である。

2025年度（参考）

- 麻酔科管理症例数：7565症例
- 専門研修指導医の人数：27人
- 麻酔科管理全症例数：7565例
- 小児（6歳未満）の麻酔：362例
- 帝王切開の麻酔：196例
- 心臓血管手術の麻酔：655例
- 胸部外科手術の麻酔：442例
- 脳神経外科の麻酔：230例

関西労災病院

研修実施責任者：前田 晃彦
専門研修指導医：

- 前田 晃彦（麻酔・心臓血管麻酔・区域麻酔）
- 上山 博史（麻酔・産科麻酔）
- 田村 岳士（麻酔）
- 清中 さわみ（麻酔）

専門医：

- 田中 みちる（麻酔）
- 山内 千奈（麻酔）
- 稲垣 佳苗（麻酔）
- 中村 藍（麻酔）
- 河野 悠（麻酔）
- 加藤 裕美子（麻酔）
- 魚谷 美貴（麻酔）
- 安田 めぐみ（麻酔）
- 下川 茉理（麻酔）
- 劉 嘉叡（麻酔）

認定病院番号：327

特徴：阪神地区の急性期医療、がん診療の中核病院。2台の手術支援ロボットを有し、消化器外科（食道、胃、大腸、肝臓、膵臓）、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科でロボット支援手術を行うなど領域によっては教育機関と同等以上の医療を実践。また心臓血管外科、脳神経外科、末梢神経ブロック施行症例も豊富である。

大阪警察病院

研修実施責任者：北 貴志

専門研修指導医：

- 北 貴志（麻酔）
- 井上 潤一（麻酔・ペイン）
- 一澤 真珠（麻酔・ペイン）
- 河合 恵子（麻酔・集中治療）
- 寺西 理恵（麻酔）
- 上田 篤史（麻酔）
- 竹田 峰子（麻酔）
- 小山 英彦（麻酔・集中治療）
- 柴田 晶カール（麻酔）
- 池田 真悠実（麻酔・ペイン）
- （専門研修指導医 計10名）

専門医：

- 李 太訓（麻酔）
- 久保 飛鳥（麻酔）
- 孫 寅硯（麻酔）
- 竹山 恵梨子（麻酔）

認定病院番号：295

特徴：症例数の多い急性期病院であり、小児外科を除くほとんどの診療科の症例が研修できる。

市立豊中病院

研修実施責任者：高田 幸治（麻酔・集中治療）

専門研修指導医：

- 二宮 万理江（麻酔・集中治療）
- 滝本 佳予（麻酔・集中治療）
- 八木 拓也（麻酔・集中治療）

専門医：

- 奥野 勇輔（麻酔・集中治療）

認定病院番号：352

特徴：

- 全ての診療科があり、基本的な手術から複雑な手術、ASA1～5 の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。また、緊急手術も多く経験できる。
- 2 年間の在籍で心臓外科手術を除く特殊症例の症例数の達成が可能である。
- 集中治療と緩和ケアの研修を行うこともできる。

大阪母子医療センター

研修実施責任者：竹下 淳（小児・産科麻酔）

専門研修指導医：

- 竹下 淳（小児・産科麻酔）
- 川村 篤（小児集中治療）

- 濱場 啓史（小児・産科麻酔）
- 増茂 薫（小児・産科麻酔）
- 阪上 愛（小児・産科麻酔）
- 西垣 厚（小児集中治療）

専門医：

- 征矢 尚美（小児・産科麻酔）
- 菜畑 綾香（小児・産科麻酔）
- 佐伯 淳人（小児・産科麻酔）
- 井川 大輝（小児・産科麻酔）

認定病院番号：260

特徴：

- 小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし、専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として、胆道閉鎖症、胃食道逆流症、横隔膜ヘルニア、消化管閉鎖症、固形腫瘍（小児外科）、先天性水頭症、もやもや病、狭頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤（脳神経外科）、複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科）、口唇口蓋裂（口腔外科）、小耳症、母斑、多合指（趾）症（形成外科）、分娩麻痺、骨欠損、多合指（趾）症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、総排泄腔遺残症（泌尿器科）、斜視、未熟児網膜症（眼科）、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎（耳鼻科）、白血病、悪性腫瘍（血液・腫瘍科）、帝王切開、無痛分娩、双胎間輸血症候群（産科）などがある。さらに、小児では消化管内視鏡検査や血管透視、MRI などの検査の麻酔・鎮静も麻酔科医が行っている。

2025 年度 症例数

- 小児（6 歳未満）の麻酔：2122 例
- 帝王切開術の麻酔：421 例
- 心臓血管手術の麻酔：331 例
- 胸部外科手術の麻酔：13 例
- 脳神経外科手術の麻酔：62 例

国立大阪医療センター

専門研修指導医：

- 渋谷 博美（麻酔）

- 天野 栄三（麻酔）
- 島川 宜子（麻酔）
- 石井 裕子（麻酔）
- 伊藤 千明（麻酔）
- 上田 祥弘（麻酔）
- 山路 寛人（麻酔・心臓麻酔）
- 中西 裕貴子（麻酔）
- 桐山 有紀（麻酔・心臓麻酔・集中治療）
- 浜川 綾子（麻酔）
- 山形 晃太（麻酔）
- （専門研修指導医 計 11 名）

専門医：

- 森 裕美（麻酔）
- 首藤 喬（麻酔）
- 三田 碧（麻酔）
- 原 恵理子（麻酔）

認定病院番号：584

特徴：当センターは、大阪市営地下鉄谷町線と中央線の「谷町 4 丁目」駅上にあり、窓越しに大阪城と難波の宮が見えます。心臓血管麻酔専門医認定施設であり、低侵襲の MICS や大血管手術、mitral clip や TAVI などの麻酔も多く経験できます。そのほか多くの診療科の手術麻酔を施行しています。ロボット支援下低侵襲手術や手術室外で施行される脳血管内手術にも対応しています。外科系診療科との連携もとれており、とても働きやすい職場です。ICU 研修も行っています。敷地内保育園、病児保育や夜間保育があります。

2025 年度 症例数

- 麻酔科管理全症例数：3411
- 小児（6 歳未満）の麻酔：32
- 帝王切開の麻酔：27
- 心臓血管手術の麻酔：175
- 胸部外科手術の麻酔：110
- 脳神経外科の麻酔：145

麻酔科専門研修の経験目標と就業環境

妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など、正当な理由がある場合には、必要に応じて対応が行われます。
研修期間中は、常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき勤務することが求められます。
専攻医の就業環境については、各研修施設が労働基準法や医療法を遵守することを原則とし、プログラム統括責任者および各施設の研修責任者が、設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与などを含めた適切な労働環境の整備に努め、専攻医の心身の健康維持にも配慮します。
年次評価の際には、専攻医および専門研修指導医が研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会へ報告します。
就業環境の改善が必要と判断された場合には、当該施設の施設長や研修責任者に文書で通達・指導が行われます。